

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	2072100379		
法人名	社会福祉法人敬老園		
事業所名	グループホームかるいざわ敬老園		
所在地	長野県北佐久郡軽井沢町追分1436番地 (電 話) 0267-44-1165		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年4月17日

【情報提供票より】 (平成21年 3月 12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円
敷 金	有 ( 円) <b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(平成21年 3月 12日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	0	要介護 2	0
要介護 3	4	要介護 4	4
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 87.4 歳	最低 79 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・軽井沢病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

信州屈指のリゾート地、軽井沢の西側別荘地に複合施設かるいざわ敬老園がある。小鳥のさえずりが聞こえてきそうな静かな森に囲まれた建物の奥に当ホームがある。温泉の権利を持つ法人の他施設から温泉を運び、損得なしのサービスを実践している。広域にわたり事業展開する法人だからこそできるサービスである。また、職員育成も計画的に行われており、個々の目標管理や研修の企画・紹介など各職員が向上心を持てるよう取り組んでいる。ホームの職員もそれらに参加することで研鑽に努めている。入居しても馴染みの人達との関係が継続できるように積極的に取り組んでおり、在宅での生活スタイルが保持できるように配慮するなど入居者一人ひとり、その人らしい生活の支援に努めている。別荘気分でのんびり過ごすことのできる居心地の良いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 理念に関してはホーム独自の理念に作りかえられた。介護計画の見直しに関しては3ヶ月に一度の見直しに改善し、更に日々実施状況を確認し状態変化の気づきに活かしている。同業者との交流に関しては必要時に連絡をとるなど前向きに取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価に取り組みサービスの質の向上に役立てられた。外部評価結果は全職員に報告し改善項目に関しては検討し改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 入居者と家族代表、民生委員(兼第三者委員)、町福祉課課長補佐、自治会長、包括支援センター職員、施設職員が参加し定期的に開催されている。ホームからは活動などを報告し、地域からは行事や住民の現況などが報告されている。それらを基に話し合いが行われ双方向的な会議となっている。行政や地域関係者など幅広い立場の方々との繋がりには非常に力強いと感じている。
重点項目 ②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が何でも気軽に言えるような雰囲気作りや会話の機会を多くしている。ご家族からの意見要望等は今までに寄せられてはいない。家族会は設立されていないが、年二回家族が集まる機会があるので同じ立場の家族同士の交流が持てるよう更に検討されることを期待したい。
	重点項目 ③
重点項目 ④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念について職員で話し合い、「その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント」をホーム独自の理念として謳い、自分たちの方向性を明らかにした。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングで理念を唱和し意識づけをしている。また、月一回の処遇会議において日々のケアを振り返り理念の実践に取り組んでいる。職員の話からも理念を共有し日々取り組んでいる様子を伺うことができた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の幼稚園や小学校の子供たちが訪問し歌を歌ったり、餅つきやクリスマス等の行事を入居者と楽しんでいる。また、地域住民による音楽や三味線の演奏、傾聴など月一回程度ボランティアの訪問もある。地域清掃に出かけ、地元の人達との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組むことでケアの見直しやケアの振り返り、サービスの質の向上に活かすことが出来た。あいまいであった所は文字にしたことで理解につなげることが出来た。外部評価結果は全職員に報告し改善項目に関しては検討し改善に取り組んでいる。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側は取り組みや活動を報告し、地域や町からは行事の予定や別荘地住民の高齢化などの状況を報告している。それらを基に意見交換している。話し合いの内容や意見は接遇会議で報告しサービスの質の向上に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター、行政、居宅事業所、社協関係、特養などの介護保険施設、町内のグループホーム、医療機関などの担当者等が集まる地域ケア会議に参加し、情報交換を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便り“こもれび”を年4回発行し行事の様子を写真入りで紹介している。金銭管理に関しては預かり金はなく利用料などは事務が一括して行っている。日々の様子は居室担当者が手紙に書いて、毎月家族に送っている。健康状態などは必要に応じ電話でも行うが面会時にも近況を詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族と話す機会を持ち苦情や意見、要望を伺うように取り組んでいる。また、家族等には意見箱の設置や第三者委員や役場などの窓口を契約時に説明している。家族等からの意見を全職員に報告し、話し合い、運営に反映させたい意向がある。	○	家族会は設立されていないが年二回家族が集まる機会があるので、今後それを何らかの形で活かしていくことを検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による支援が大切なことを管理者は認識している。やむ得ず職員が交代する場合には管理者から認知症の特性について説明している。また、全職員でフォローし合い入居者へのダメージを防ぐ取り組みもしている。入居者から「この人、誰れ?」と聞かれたような場合には繰り返し説明をしている。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には年間の研修計画がありそれに沿った研修が行われる一方、施設内でも勉強会が適宜実施されホーム職員も意欲的に参加している。また、法人外の研修案内も紹介されるなど職員の研修の機会が多い。資格取得に関しても法人は奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には6カ所のグループホームがある。法人の研修で交流の機会があり情報交換をしている。地域ケア会議でも他のグループホームの職員と話す機会があり必要があれば連絡を取り合うこともある。今後は地域のネットワークへの参加も考えている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得し馴染んでからサービスを開始するよう努めている。希望者には見学を勧めたり、面接に管理者が出かけたり、家族と相談しながら行っている。利用開始後しばらくの間は家族の面会をお願いし、早い段階で本人が馴染むようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	分からないことがあれば入居者に教えてもらっている。入居者の考えや話はとても役に立ち学ぶことが多い。職員は入居者から教えてもらったり助けてもらった時に感謝の言葉を伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、ケアマネージャーなど本人を良く知る関係者から生活歴や今までの暮らしの様子の情報収集をしている他、日々の生活から本人の思いや意向の把握に努めている。本人の意向等の把握が困難な場合には家族に確認したり、資料や日頃の様子などから本人本位に検討している。話しかけに応じる入居者の表情で判断することもある。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人や家族から話しを聞き、また職員からも話を聞きながら介護計画を作成している。必要があれば併設施設の看護師、栄養士からも意見をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヵ月ごとに見直しを行っているが、それ以外には個別のケース記録や排泄・食事摂取チェック表、サービス提供表に日々記入することで本人の状態の変化を察知し、変化があればその都度見直し、現状に即した計画を作成している。居室担当者は月ごとに介護サービス計画評価表にニーズ、目標達成度、本人の満足度、今後の方針などを分析し記入している。計画作成担当者はそれを確認し見直しに役立てている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	空きベッドを利用してショートステイの受入れを平成18年から行っている。通院は家族にお願いしているが都合がつかない場合は家族に代わり職員が付き添っている。専門学校生の実習場所の依頼があれば受入れをしている。併設施設のデイサービスに参加することもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人家族の希望に沿っている。受診の際には情報書を作成し適切な医療が受けられるよう支援している。入居者の健康管理や緊急時の対応は併設施設の看護師と連絡を取りながら行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護に関する指針がある。状態に応じながら家族が医師や看護師、職員等と相談し方針を決めている。方針は全職員が共有している。ホームで最期を迎えた入居者もいるが、併設施設や医療機関に移るケースもあり、意向に沿った支援が行われている。併設施設内にはターミナル委員会があり、ホームの職員も委員の一人として参加している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い、守秘義務に関しての教育が行われ周知徹底されている。一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねない声かけや対応に注意を払いながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の予定はおおまかに決まっているがその時の状況を見ながら柔軟に支援している。本人が自発的に行動できるような声かけや本人のペースで生活できるように見守りながら支援している。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週月曜日の昼食は入居者の希望する特別メニューとなっている。入居者は買い物に出掛けるなどできる範囲で参加している。テーブルに向かう入居者の中には在宅で使用していた特別な椅子を持ち込み、場所は変わっても自宅でのスタイルを保持しながら食事を摂っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能である。入居者は週二回（火・金）、同じ法人の鹿教湯温泉郷にある他施設から届く湯に浸かり温泉気分を楽しんでいる。また、昔からの行事の菖蒲湯や柚子湯の日も設けられており、入居者にはとても喜ばれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔からの友達の訪問を受けたり、知り合いが利用するデイサービスへ出かけていく入居者もいる。馴染みの人達との交流の機会を積極的に取り込んでいる。日々の暮らしの中では得意分野で力を発揮してもらうことで生き甲斐や生活への張り合いにつながるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周辺を散歩し気分転換や機能維持向上にも努めている。歩行困難な入居者は車椅子で外出している。四季折々に入居者、職員共にお花見やイチゴ狩り、紅葉狩りなどにも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害を認識しており、鍵を掛けない支援を実践している。定期的に所在確認を行っている。		

グループホームかるいざわ敬老園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域消防団の協力を得ながら年2回避難訓練を実施している。周囲が別荘地のため住民に代わり大勢の地域消防団員の協力を得ている。消火器の取り扱いや通報訓練も行われている。スプリンクラーの設置があり、また、夜間の見回りはこまめに行ない安全確保に努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の協力を得ながら栄養バランスに配慮し、入居者の状態に合わせた食形態に必要な栄養摂取や水分確保の支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなガラス戸を通し陽の光が差し込む食堂兼居間で、訪問者の車や落葉樹林を眺めたり、テレビを見たりおしゃべりしながら日中を過ごす入居者が多い。壁には花や裸婦、動物など様々な絵画や写真が飾られている。特大のガラス戸を通して見える四季の風景は入居者の話題を豊にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自分の部屋として安心して過ごすことができるように家族の協力を得ながら家具や沢山の衣服が持ち込まれ、写真なども飾った居室がみられる。地元の人には馴染みの地名が一人ひとりの居室名として入り口に付けられていた。		

※  は、重点項目。